

資料 7

3. 地球人間圏科学－持続可能な日本、アジア、世界の実現への道

21 世紀前半のわが国における地球人間圏科学の最大の課題を、「持続可能な日本、アジア、世界の実現への貢献」と規定し、その達成度を地域・社会のサステナビリティ及び知識・情報の質・量・モビリティ等で決まる広い意味でのサイエンスレベルの向上により実現するという道筋を描いた。全期を以下の通り 3 期に分け、全期を通じてサイエンスレベルを押し上げる力として 教育・研究により駆動される人・情報・知識の循環 を掲げた。

Phase I (2012 年頃～2022 年頃) : ICSU(国際科学会議)の提唱する長期的研究指針 **Grand Challenges in Global Sustainability Research (GC)**の想定期間と重なる。この間に GC の指針に沿って地球人間圏が抱える諸問題の実態把握と改善の道筋を明らかにし、地球人間圏科学・教育の充実と世界的展開の流れを確実にする。具体的には以下の活動を進める。

- ・ **陸域持続可能性研究** : 土地利用・被覆変化、土地・資源・エネルギー、都市、農村、林野、土壌、水文、環境保全、生態系保全、環境劣化、廃棄物、統合モデル、地球情報
- ・ **沿岸・縁辺海域・海洋持続可能性研究** : 陸域－縁辺海域システム、沿岸・縁辺海域利用、環境保全、生態系保全、海洋資源、汚染の発生と浄化
- ・ **リスクマネジメント研究** : 気候変化影響、地震、洪水、津波、地形災害、火山災害、自然災害軽減、複合的リスク管理
- ・ **地球人間圏科学研究・教育・情報ネットワーク** : 学校市民参加モニタリングネットワーク、ESD、地球人間圏科学教育、グッドプラクティスの発掘と推進

Phase II (2023 年頃～2033 年頃) : Phase I の成果を活かし、全人類的パートナーシップを確立し、持続可能な日本、アジア、世界への道を見出すことを目標とする。具体的には、

- ・ 地球人間圏科学研究・教育・情報ネットワークの一層の充実と世界的展開
- ・ 陸域・沿岸・縁辺海域・海洋持続可能性研究の一層の充実と世界的展開
- ・ リスクマネジメント研究・教育の一層の充実と世界的展開
- ・ グッドプラクティスの充実と推進

Phase III (2034 年頃～2044 年頃) : Phase II の成果を活かし、地球人間圏科学・教育の充実と世界的展開に努めるとともに、すべての人類の協和、英知の結集、地球環境倫理の確立を実現し、以下の目標を達成することに寄与する。

- ・ 持続可能な世界を生きるための新しい地球観、生命観、人間観、世界観の創出
- ・ 地球環境問題の克服 : 人口問題、食糧問題、土地・資源・エネルギー問題、温暖化問題
- ・ 汚染の縮小、自然災害の減少、格差・貧困の削減
- ・ 持続可能な世界を導き維持する地球人間圏科学の更なる高度化と教育の推進
- ・ 科学の果実の全人類的共有

以上により、人と自然が調和した平和で持続可能な日本、アジア、世界を実現することに最大限の貢献をすることが、わが国の地球人間圏科学の「夢」である。